

東大理Ⅲに4人の子どもを合格させた

大分出身・佐藤亮子ママの講演会から教わったこと④

『スピード社会の功罪！』

唐突ですが、世の中はドンドン便利で早くなって行きますよね。つい先日のニュースで、私が当時中学生時代に全盛期を迎えていたポケベル（ポケットベル）のサービスが完全廃止になったと報道されていました。発売からわずか50年でその栄枯盛衰を体現したことになると思います。

そして今は、ポケベルと比べると劇的に進化したスマートフォンの時代。いつでもどこでも、必要な情報が直ぐに手に入り、24時間いつでも直ぐに必要な商品を購入することまで出来てしまう。ある一定の場所まで移動して、辞書などの書籍で調べたり、実店舗に行って商品を購入していたほんの数年前と比べると、全てが便利で早くなりました。とりわけ、スピードを比較すると天文学的に速くなっているように感じます。スピードに関して言えば新幹線もどんどん進歩して、1964年東京オリンピック開催時に営業開始した当時は時速200キロ。現在は東北新幹線の一部区間で最高速度時速320キロまで速くなっています。まだまだ速くなり便利になったモノは数えきれない程ありますが、本題の勉強に関して言えばスピードを上げることよりも、まずやらなければいけな

いことがあるようです。

まずやるべきは『勉強はゆっくり丁寧に』が基本と教えること。いかに早く（スピード）、効率良くではなく、繰り返しになります。がゆっくり・丁寧に。その上で、とても複雑なあるいは難解な問題に直面した際には諦めないこと。ましてや面倒臭がるなんて思考は絶対にダメ。面倒臭いはどんどん増長していき、勉強自体が面倒だと考えてしまったら、もう大変。

「面倒臭い」

佐藤ママはこの思考は勉強をしていく上では最悪と言っていました。

だから日常生活においても、言わないようにしていたそうです。大分弁で言う
と「よだき〜」ですが、それぞれの地域で同じような意味になる表現はあるか
と思います。使っちゃってません！？

なぜ、その言葉が最悪なのかと言うと、面倒くさいと思ったり言ったりした
時点で、人は速くそこから逃れたいと思ってしまいます。一概には言えませんが、
例えば東京から大阪まで歩いて行きなさいと言われると、嫌で嫌で逃げて
しまいたくなりますよね。何で車や新幹線があるのに、歩いてなんて面倒臭い
と思いますよね。もっと楽に速く行ける方法はないかと試行錯誤して実行でき
る能力があれば良いのですが、それは次の段階。次の段階とはきちんと思考す

ることによって、より良い方法を導き出せる能力が身に付いている段階。子どもが学習している、いわゆる初期段階では、やはり逃げ出してしまいたいと考えてしまいます。なので、面倒くさいなんて思考は持たない方が良いでしょう。難しい問題や複雑な問題に対しては、とにかく丁寧に時間をかけて答えに近づいて行く。この姿勢が正解です。そこにはスピードはまだ要求しません。

そして、丁寧にゆっくり確実に答えに近づいて行けるようになると、今度はそれを繰り返し行う。繰り返し行うので、慣れてきて少しずつスピードが上がる。そして、自分の中のスタンダードが上がり、簡単な問題と同じスピードで回答することが可能になるといった順番です。今のスピード社会に慣れすぎてしまい、とにかく速く回答することに主眼が行くと、複雑で難解な問題に対しても早く答えに近づこうと言う思考で取り組んでしまい結果、いつまでも思うように成績が伸びない子どもになってしまいます。もちろん、試験には時間があり一定の時間で最後まできちんと解答しないと、合格へは近づけません。結果的にスピードはとても大切なのです。ただ、スピードを付ける前にどんな問題にも丁寧にじっくり考える思考をまず養い、確実に解けるようになってからスピードを上げるために数（量）をこなしていくという順番が大切だと学びました。

勉強に限らず、日常生活において親は子どもに「速く！速く！！」と急かし、それに対し子どもは「待って、後から・・・」と言う。我が家でも毎日のように繰り広げられている光景です。

スピード社会の功罪はさまざまありますし、この流れには抗えない現状もありますが、子どもの勉強に関しては『ゆっくり・丁寧に・確実に』が王道のようですね。ちなみに『タイム・イズ・マネー』とよく言いますが、時間はお金の何倍も価値があると私は思っています。ということで、**面倒臭がらず**に最後まで**貴重な時間**を割いて読んでいただき、有難うございました。

S L : 1 9 - 3 2 2 0 - 0 0 5 5

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9 階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟